

## “おやまちプロジェクト”に本学の学生が参加

2017年に行われた坂倉研究室の路上ゼミは、通りを歩く人にも議論の内容が聞こえるように工夫され、関心を持ってくれる光景が見られました。その後、議論の内容に興味を示した当時の尾山台小学校校長の渡部理枝先生、尾山台在住で慶應義塾大学大学院教授の神武直彦先生が、タカノ洋品店の高野さんと坂倉先生が考える地域連携の重要性に共感。4人が発起人となり、尾山台付近の住民、商店街、学校と、あらゆる地域資源を繋ぎ、尾山台での暮らしをもっと豊かにしていく協働団体、「おやまちプロジェクト」が立ち上げられました。

プロジェクトでは、お年寄りから尾山台の歴史を学ぶワークショップ、商店街でテントを張って泊まる「OYAMACHI CAMP」、商店街の歩行者天国で様々なイベントを企画・運営する「つながるホコ天プロジェクト」などを実施。いずれも坂倉研究室の学生が参加し、身近な尾山台商店街と本学の地域連携が目に見える形となっていました。学生にとっても、コミュニティマネジメントを実践的に学ぶことができる、貴重な経験の場となっています。



2020年9月に尾山台の地区会館と、ピアノアトリエ「Fluss」をお借りし、今年度初の、坂倉研究室のオフラインのワークショップを開催。地域の協力を得て、コロナ対策を徹底しながら学生は久しぶりに議論と研究発表に勤むことができました。



## ハッピーロードにできた 坂倉研の実験ラボ、おやまちベース

2019年1月末から2か月間、ハッピーロードの空き店舗を「おやまちベース」として借り上げました。坂倉研の学生がスタッフとして、日替わりシフト制で13時～21時の間に常駐。お店でも仕事場でもない、そんな場所が商店街にあったら、どのようなことが起こっていくか。地域の人とどう関係が変わっていくかを検証する、実験的なスペースとなりました。



「私達の研究テーマは、「人と人との(ほどよい)つながりを増やし、生き心地のよい地域を作る」になります。学生はおやまちプロジェクトで、身近な尾山台に他人事ではなく自分ごとで関わることで、街の人の関係性や変化を学んでいます。尾山台の街に受け入れられて、学生はキャンパスの外にも安心して学べるフィールドがある。こうした街との関係は希少で、とてもありがたいことです」

都市生活学部 都市生活学科  
坂倉 杏介 准教授

## 実験的な「おやまちベース」は、 地域の思いを叶える場となりました

2か月の間に、様々な人が訪れたおやまちベース。なかには「ここで自家製パンを売ってみたい」、「手芸を教えたい」という人が訪れ、実際にパン屋となり、ときには手芸教室が行われる日もありました。現在は「おやまちリビングラボ」設立に向けた準備室として、坂倉研の学生が研究を続けています。



尾山台の住民が、自家製パンをおやまちベースで販売。即席で手芸教室も行われました。



「ホコ活で仲良くなった人も多くいて、卒業後も必ず訪れます!」(梅澤さん)。  
「地元のお母さんが、ホコ活中の私たちに遊び相手として子供を預けて、その間に買い物を買わせることがあるんです。こうして街の人と信頼しあえるのが嬉しいですね」(内田さん)

都市生活学科 梅澤 遥美さん(左) 内田 未来さん(右)



## 学生が子供と遊ぶ 「ホコ活」

ハッピーロードは毎日16時～18時が歩行者天国となり、坂倉研究室では毎週水曜に「ホコ活」を実施。路上に芝を敷いて子供とやってみよう遊びを行うなど、様々な人と交流する活動を行っています。



## 卒業生がお届けする 「おやまちラジオ」

坂倉研究室卒業生がハッピーロードから、「ミニナトモダチ!おやまちラジオ」を放送。ローカル電波では収録場所の周囲20～30mほどしか視聴できませんが、Facebookでの生配信のほか、Spotifyなどの複数のサブスクでオンライン視聴することができます。